

新駅の位置については、既に土地を確保している植松3丁目、ろう学校前から竹松駅に変更させることは現在認可を受けている中では、困難であると思う。

新駅から在来駅とのアクセスについては、シャトルバス等の運行が考えられるが、関係機関と十分に協議しながら交通手段を決めていきたい。大村市の新幹線を活かしたまちづくり懇話会のご提言をいただきながら、新幹線を活かしたまちづくりに取り組みたい。

都市整備部長 (2)国道34号線については、現在拡幅工事を実施している大村公園から大上戸川までの約1,400mの区間に街路樹として桜を植栽していた。大きく育ちすぎた桜を伐採して、新しく長崎河川国道事務所に要望している。市道大村駅前線は、街路樹としてアメリカカフウやハナミツキ等を植栽している。植栽後10年以上経ち、木の形が整った現在、全ての樹木を桜に植え替えることは市民の理解と合意が必要だと思う。しかし、バランスを崩さないよう、点々と配置することは可能だと思おうので、中心市街地活性化事業とあわせて検討したい。

(その他の質問事項)

- ・日本一赤ちゃんを大切にすまじ宣言について
- ・道路維持補修費の予算確保を。

道州制を見すえて

伊川議員

(1)道州制について

8月25日に大村、諫早、雲仙、島原、南島原の5人の市長による座談会が開かれ、道州制を見すえた「5市合併」、さらに長崎市を加えた「大長崎市構想」、県央地区への県庁移転などが議論、提案されている。

道州制については、2018年までには完全移行とする政府の私的懇談会の報告などがあり、各界で活発化しているが、世論が盛り上がっているという訳でもない。市長の基本的なお考えは。

市長

(1)これまで国や県が進めてきた近隣市町の合併と、今回の県央5市の市長が提唱した5市合併構想とは、基本的な背景や目的が異なることをまずご理解いただきたい。

これまで、長崎県が策定した長崎県市町合併推進構想に基づき、市町合併が進められている。市としては、東彼杵3町の合併の動向を見守りながらも、まず10万都市を目指すという考え方に変わりはない。

九州における道州制の議論は、全国でも進んでおり、九州市長

会が策定した九州府構想においては、早ければ今から8年後をめどに道州制の実現を目指すとしており、九州府は近い将来に必ず現実味を帯びてくる課題である。道州制による九州府の実現を見据えた場合、これまでのように県が示した枠組みに基づく近隣市町の合併では対応が極めて難しいと考える。長崎県の県央地区、長崎県の大村市という従来の考え方から一歩踏み込み、九州府における西九州の拠点都市を目指すために県央5市や東彼杵3町との広域的な連携などの議論を深めることも重要である。将来の道州制を踏まえ、今後の基礎自治体のあり方等の調査研究を具体的に進めなくてはいけないと感じている。

(その他の質問事項)

- ・妊婦健診の5枚の受診票は、妊娠中はいつでも使えるのか。
- ・PTAの環境整備に係る陳情書の扱いの流れについて
- ・学童保育の指導員の研修体制不登校の実態と対策について
- ・公共交通体系についての取り組みの状況
- ・中地区公民館のトイレの改善



県下でもっとも多い

資格証明書の発行を抑制せよ
福重地区の線刻仏を
地元で研究しています

久野議員

(1)福祉行政について

①親が国保税を滞納しても子どもに責任はない。子どものいる家族の資格証明書発行は止めるべきと考えるがどうか。小中学生の発行はどうか。

②メタボ健診は、生活習慣を改善し、医療費の削減にも役立てようと国が一方的に、地方の特性を無視して、導入したものです。自治体の持ち出しが多く、従来の健診項目などを縮小・廃止する自治体が多い。大村市はどうか。

③後期高齢者の基本検診でも、希望があれば、治療中でも受診できるようにしてほしいがどうか。

(2)福重地区の線刻仏について

福重地区の郷土史研究会が地区に点在する自然石に刻んだ、平安末期から室町時代の線刻仏石を調査した。文化財の保存と若い世代への伝承、さらには、観光農業やグリーンツーリズムと合わせ、地域文化の振興に市はどう対処するか。

福祉保健部長 (1)①事情をきちんと説明いただき、面談ができれば